

## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（６）

大項目： 2 . 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： ( 1 ) 貨幣の製造等

小項目： 高品質で純正画一な貨幣の確実な製造

中期目標	<p>造幣局は、製造量の減少にも対応し得る製造体制の合理化、効率化を図りつつ、財務大臣の定める貨幣製造計画を確実に達成するものとする。</p> <p>また、緊急の場合を含め当初予見しがたい製造数量の増減などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制を構築するものとする。</p> <p>さらに、効率的に高品質で純正画一な貨幣を製造すべく、製造工程における損率の改善に努めるとともに、最終の品質検査を徹底し、今後とも納品後の返品をゼロとするものとする。</p> <p>(注) 損率とは、製造工程中の投入量に対する仕損重量の比率をいう。</p>
中期計画	<p>イ．財務大臣の定める製造計画の達成</p> <p>作業の進捗管理、在庫管理等については、生産管理システム及び ERP システムの運用により、期日管理を含めた生産管理体制の一層の充実強化を行うとともに、設備管理について保守点検を厳格に行い、貨幣の製造量の減少にも対応しうる製造体制の合理化、効率化を図りつつ、貨幣を安定的かつ確実に製造し、今後とも財務大臣の定める製造計画を確実に達成します。</p> <p>ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築</p> <p>緊急の場合を含め当初予見しがたい貨幣製造数量の増減や記念貨幣の追加発行などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築に努めます。また、業務運営の一層の効率化の観点から、今後の運営状況を踏まえ、組織・規程の見直しについて継続的に検討を行います。</p> <p>そのため、貨幣部門においては技能研修を実施し、幅広い業務に関する知識や技能を習得した職員を養成します。</p> <p>ハ．純正画一な貨幣の製造</p> <p>品質マネジメントシステム ISO-9001 を活用し、品質目標を定める目標管理制度の導入や、品質マニュアルの策定により標準化を図ること等により品質管理体制を充実させ、引き続き純正画一な貨幣の製造を行い、今後とも、納品後の返品件数ゼロを維持します。</p> <p>ニ．損率改善</p> <p>不良品の発生等、製造工程上のトラブルが発生した場合には、原因の究明、対応策の検討、製造工程へのフィードバック等の一連の対応を迅速に実施します。製造工程における損率の改善を図るため、実績歩留を理論歩留に近づけます。損率改善の指標</p>

	<p>として 500 円ニッケル黄銅貨幣の仕損率を採用することとし、目標期間中の仕損率の平均が平成 13 年度の実績値を下回るよう努めます。</p> <p>(参考) 13 年度 500 円ニッケル黄銅貨幣仕損率 5.2%</p> <p>仕損率 = 1 - (実績歩留 ÷ 理論歩留)</p>
<p>(参考) 年度計画</p>	<p>イ. 財務大臣の定める製造計画の達成</p> <p>作業の進捗管理、在庫管理等については、生産管理システム及び ERP システムの運用で予定と実績の差異を確実に把握することにより、期日管理を含めた生産管理体制の一層の充実強化を図ります。また、設備管理については、法定点検だけでなく予防保全の観点からも製造設備の保守点検を定期的に行います。これらのことにより、製造体制の合理化、効率化を図りつつ、貨幣を安定的かつ確実に製造し、財務大臣の定める製造計画を確実に達成します。</p> <p>ロ. 柔軟で機動的な製造体制の構築</p> <p>緊急の場合を含め、当初予見しがたい貨幣製造数量の増減や記念貨幣の追加発行などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築に努めます。平成 17 年度においても貨幣部門における技能研修を実施し、溶解工程から圧印検査工程までの幅広い業務に関する知識や技能を習得した職員の養成に努めます。</p> <p>また、業務運営の一層の効率化の観点から、今後の運営状況を踏まえ、組織・規程の見直しについて継続的に検討を行います。</p> <p>ハ. 純正画一な貨幣の製造</p> <p>品質マネジメントシステム ISO-9001 を活用し、品質目標を定める目標管理制度や、品質マニュアルにより標準化を図ること等により品質管理体制を充実させ、引き続き純正画一な貨幣の製造を行い、納品後の返品件数ゼロを維持します。</p> <p>二. 損率改善</p> <p>不良品の発生等、製造工程上のトラブルが発生した場合には、原因の究明、対応策の検討、製造工程へのフィードバック等の一連の対応を迅速に実施します。これらの措置をとることにより、実績歩留を理論歩留に近づけ、製造工程における損率の改善を図ります。損率改善の指標として、溶解から圧印・検査工程までの全ての工程を造幣局内で行っている 500 円ニッケル黄銅貨幣の平成 17 年度の仕損率が、平成 13 年度の実績値である 5.2%以下となるよう努めます。</p>
<p>業務の実績</p>	<p>イ. 財務大臣の定める製造計画の達成</p> <p><b>生産管理システム及びERPシステムの運用による生産管理体制の充実強化の状況</b></p> <p>1. 生産管理システム及びERPシステムを活用し、製造予定及び実績等の評価により生産管理を徹底し、製造計画を確実に達成した。</p> <p>貨幣製造計画の変更(平成 17 年 12 月)が生じた際にも、生産管理システム及びERPシステムから得られる在庫管理、生産管理の各データを活用することにより、</p>

効率的な作業計画を迅速に策定し、対処することができた。

2. ERPシステムが持つ機能の一つである管理会計の機能を利用することにより、製造原価の計画値と実績値の差異を把握し分析を行った。

3. 貨幣製造の各工程における作業実態に応じ、原価分析の精度を上げるために標準原価の見直しを行った。

#### 設備の保守点検の状況

予防保全に重点を置いた日常点検、静点検、動点検のほか、平成16年度に引き続き、定期的（月1回）に、各課の係長、現場の作業責任者で行うフォロー会議を実施し、安定操業について意識の啓蒙を行った。

さらに、生産保全の向上を図るため、優れた民間企業との技術交流会（平成17年8月）を開催し、作業現場を含めたTPM活動（全員参加の生産保全）への取組みを開始した。

（予防保全の内容）

1. 保全担当職員が、故障履歴の調査及び分析を行った。

2. 過去のデータから故障しやすい部品を計画的に交換した。

3. 保全担当職員が、定期的に設備の停止中に行う静点検及び運転中に行う動点検を実施した。さらに、保全担当職員と各現場職員との相互間において水平展開を図ることにより、実効性のある点検を実施した。

予防保全を強化した結果は数値として現われ、故障件数は平成16年度と比べ約4割減の水準に減少した。また、生産に直接的に影響を与える停止時間についても、故障時の迅速な対応に努めたことにより、平成16年度と比べ約1割減の水準に減少した。これにより、設備稼働率が向上し、修繕費の圧縮による経費の節減が図られた。

〔参考〕

#### 故障件数及び停止時間

年 度	平成16年度 実績 (A)	平成17年度 実績 (B)	(B) ÷ (A) (%)
故障件数	33件	20件	61
停止時間	101時間	87時間	86

#### 貨幣の安定的かつ確実な製造の状況

ERPシステムの活用による生産管理体制の強化及び予防保全に重点を置いたメンテナンス強化を通じた安定操業により、各工程とも計画製出量を達成し、財務大臣の定める製造計画を達成した。また、品質面についても、品質マネジメントシステムに基づく管理体制により、貨幣を財務省に納品する際に行われる財務局の納入前検査に全て合格した。

### 財務大臣の定める製造計画の達成状況

生産管理システム及びERPシステムの運用による期日管理を含めた生産管理体制の充実強化とともに、定期的な保守点検による厳格な設備管理により、貨幣を安定的かつ確実に製造し、財務大臣の定めた平成17年度の製造計画を確実に達成した。

財務大臣の定めた製造計画と実績

(単位：枚)

貨幣種別		製造計画	実績	備考
500円	通常貨	369,735,000	369,735,000	
	ブルーフ貨	265,000	265,000	
100円	通常貨	279,735,000	279,735,000	
	ブルーフ貨	265,000	265,000	
50円	通常貨	9,735,000	9,735,000	
	ブルーフ貨	265,000	265,000	
10円	通常貨	459,735,000	459,735,000	
	ブルーフ貨	265,000	265,000	
5円	通常貨	9,735,000	9,735,000	
	ブルーフ貨	265,000	265,000	
1円	通常貨	59,735,000	59,735,000	
	ブルーフ貨	265,000	265,000	
計		1,190,000,000	1,190,000,000	

### ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築

#### 製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築状況

- 1．平成17年度の貨幣製造計画は、当初（平成17年3月29日）の12億5,000万枚に対して、平成17年12月に市中における貨幣の流通状況を踏まえた変更が行われ、製造枚数は11億9,000万枚に減少した。
- 2．平成17年12月の計画変更は、市中における貨幣の流通状況を踏まえて当初に比べ500円ニッケル黄銅貨幣及び100円白銅貨幣を1億2,000万枚増加し、10円青銅貨幣及び5円黄銅貨幣を1億8,000万枚減少するものであり、全体として当初に比べ6千万枚の削減を内容とするものであったが、財務省と緊密に情報交換し、事前に計画変更に対応可能な作業計画を検討していたこともあり、支障なく製造計画を確実に達成した。

#### 組織・規程の見直しについての検討状況

機動的で、より高品質な貨幣製造体制を確保する観点から、貨幣製造に関する規程の見直しを行い、通常貨幣の品質管理基準（製造貨幣局内試験規程）については、これまで実施した局内試験結果（量目試験・直径試験・厚さ試験）を踏まえ、従来の基準よりも厳しい基準に改めた（平成17年7月施行）。

また、通常貨幣の製造に係る品質基準と作業の仕方について定めた「通常貨幣の製造に係る作業標準細目」については、品質管理における改善を迅速に反映できるよう、品質基準と作業手順を分けて規定化した（平成17年7月施行）。

### 貨幣部門における技能研修の実施状況

貨幣製造計画の変更に的確に対応できる柔軟で機動的な製造体制を構築するためには、溶解工程から圧印検査工程までの幅広い業務に関する知識や技能を修得している職員の養成が不可欠となる。こうした観点から、平成17年度において、10人の職員を対象に9ヶ月間、貨幣部門総合技能研修を実施した（平成17年7月から平成18年3月まで。本局5人、広島支局4人、東京支局1人）

また、作業員個々のスキルアップを図るための外部研修にも積極的に参加させた。

## 八. 純正画一な貨幣の製造

### ISO-9001の活用による品質管理体制の充実状況

平成17年度において、環境マネジメントシステムを構築するにあたり、品質・環境の両マネジメントシステム間の整合性・協働性の確保のため、既存の品質マネジメントシステム関連諸規程について所要の見直しを行い、「造幣局における事業運営の継続的改善に関する基本規程（品質マネジメントシステムに関する基本規程）」、「造幣局是正予防規程」、「造幣局監査検証規程（内部監査及びマネジメントレビューに関する規程）」の新規3訓令を制定した。

貨幣製造事業については、新たに制定した「造幣局における事業運営の継続的改善に関する基本規程」において、その事業運営の基本方針を「純正画一かつ偽造抵抗力のある貨幣を合理的な費用をもって確実かつ安定的に製造すること」と明記しており、この目的を達成するため、ISO9001規格が要求する事項を着実に実施するとともに、その規格要求事項に照らして、局内諸制度の継続的改善を行うこととした。

貨幣製造事業の実作業においては、既に構築した諸制度に基づきプロセス管理を徹底するなど、品質管理体制の充実に努めた。

〔参考〕貨幣製造に関する諸制度（関係規程）

- ・作業の基準に関する規程（訓令）
- ・通常貨幣の製造に係る作業標準（通達）
- ・通常貨幣の製造に係る作業標準細目（臨達）

### 純正画一な貨幣の製造状況

品質マネジメントシステムISO-9001に基づく品質管理体制により、外注材料についても適切な業者指導等を行うことにより品質管理の徹底に努めた結果、局内試験規程に基づく検査、並びに財務省へ貨幣を納入する際に行われる財務局による検査にすべての貨幣が合格し、予定どおり納品した。

なお、平成17年10月に実施された第134次製造貨幣大試験において、執行官である谷垣財務大臣より「平成17年度製造通常貨幣及び記念貨幣は、すべてその量目が適正であることが確認できた」旨の宣言が行われている。

〔参考〕

局内試験規程に基づく検査実施回数

品位試験：1,983回

量目試験：3,955回

直径試験：530回

厚さ試験：530回

第134次製造貨幣大試験

実施日：平成17年10月24日（月）

執行官：谷垣財務大臣

対象貨幣：平成17年度製造通常貨幣並びに2005年日本国際博覧会記念千円銀貨幣、2005年日本国際博覧会記念500円ニッケル黄銅貨幣及び中部国際空港開港記念500円銀貨幣

試験方法：貨幣の種類ごとに、製造枚数に応じて一定割合で抽出のうえ、1,000枚ごとに集合秤量の方法により、貨幣の量目の精度について行われる（ただし、1,000枚に満たない場合は100枚単位、千円銀貨幣及び500円銀貨幣については、1枚ごとの個別秤量（電子天秤）の方法による）。

納品後の返品の有無

品質マネジメントシステムに基づく作業標準の遵守により、納品貨幣の返品件数ゼロを維持した。

【 納品した貨幣 】

流通貨幣：11億8,841万枚

販売貨幣：159万枚

（ブルーフ26.5万セット）

二．損率改善

トラブル発生時における迅速な対応の実施状況

平成16年度に引き続き、日常の設備維持管理、予防保全に重点を置いた定期的な設備の維持管理を実施した。

具体的には、予防保全と故障発生時における迅速な対応が可能となるよう、保全担当職員の電子回路読解技能等の能力向上に努める一方で、操業上重要な予備部品の事前調達を徹底した。また、保全担当職員が、過去の故障実績を基に故障が多い箇所や部品の抽出を行うほか、日常点検及び定期的な部品交換等による予防保全について、現場職員との相互間で水平展開を図った。

さらに生産保全の向上を図るため、優れた民間企業との技術交流会（平成17年8月）を開催し、作業現場を含めたTPM活動（全員参加の生産保全）への取組みを開始した。

	<p>平成17年度は、以上の予防保全の取り組みや、故障発生時における点検結果・故障事例を生かした迅速な対応により、故障停止時間を平成16年度の約101時間から約87時間まで減少（約1割減）させることができた。</p> <p><b>500円ニッケル黄銅貨幣の、期間中の平均仕損率</b></p> <p>平成16年度に引き続き、日々における各工程の損率把握と分析を行い、その情報の関係課へのフィードバックを毎週行うことを通じて、年度内を通しての仕損率改善に努めた。</p> <p>また、平成17年度は、平成16年度のコイル検査工程に引き続き、成形（圧穿）工程においても、圧延板の先端の除去部分を減少させたことによって、当該年度におけるニッケル黄銅貨幣の仕損率は0.6%となり、平成16年度と比べ若干の改善が図られた。</p> <p>〔参考〕中期計画の目標（目標期間中の仕損率の平均が平成13年度の実績値5.2%を下回ること）に対し、平成15年度仕損率は2.4%、平成16年度仕損率は0.9%となっている。</p>				
<p>評価の指標</p>	<p>イ．財務大臣の定める製造計画の達成 生産管理システム及びERPシステムの運用による生産管理体制の充実強化の状況 設備の保守点検の状況 貨幣の安定的かつ確実な製造の状況 財務大臣の定める製造計画の達成状況</p> <p>ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築 製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築状況 組織・規程の見直しについての検討状況 貨幣部門における技能研修の実施状況</p> <p>ハ．純正画一な貨幣の製造 ISO-9001の活用による品質管理体制の充実状況 純正画一な貨幣の製造状況 納品後の返品の有無</p> <p>ニ．損率改善 トラブル発生時における迅速な対応の実施状況 500円ニッケル黄銅貨幣の、期間中の平均仕損率</p>				
<p>評価等</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="354 1742 517 1787"> <p>評定</p> </td> <td data-bbox="517 1742 1449 1787"> <p>（理由・指摘事項等）</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="354 1787 517 2027"> <p>A+</p> </td> <td data-bbox="517 1787 1449 2027"> <p>生産設備の管理面では、予防保全に重点を置いた点検によって、故障件数が昨年と比較し4割減と激減するとともに、故障時の対応の迅速化によって、設備稼働率が大きく向上し、経費削減が図られた。また、新たに整備の保守点検をスムーズに無駄なく進めるため全員参加のTPM活動への取り組みを開始した。</p> </td> </tr> </table>	<p>評定</p>	<p>（理由・指摘事項等）</p>	<p>A+</p>	<p>生産設備の管理面では、予防保全に重点を置いた点検によって、故障件数が昨年と比較し4割減と激減するとともに、故障時の対応の迅速化によって、設備稼働率が大きく向上し、経費削減が図られた。また、新たに整備の保守点検をスムーズに無駄なく進めるため全員参加のTPM活動への取り組みを開始した。</p>
<p>評定</p>	<p>（理由・指摘事項等）</p>				
<p>A+</p>	<p>生産設備の管理面では、予防保全に重点を置いた点検によって、故障件数が昨年と比較し4割減と激減するとともに、故障時の対応の迅速化によって、設備稼働率が大きく向上し、経費削減が図られた。また、新たに整備の保守点検をスムーズに無駄なく進めるため全員参加のTPM活動への取り組みを開始した。</p>				

		<p>財務大臣が定める貨幣製造計画では、10億枚を超える数量を、純正画一な状態で計画どおりに確実に製造し、品質面で財務省の納入前検査にすべて合格している。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をA+とする。</p>
--	--	--



## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（ 7 ）

大項目： 2 . 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：( 1 ) 貨幣の製造等

小項目： 偽造防止技術等の効率的かつ効果的な研究開発等

中期目標	<p>造幣局は、貨幣の偽造抵抗力の向上及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案するものとする。</p> <p>これに基づき、費用対効果を勘案し、民間からの技術導入、国内外の技術交流や会議への参加などを含めた具体的な計画を策定し、調査及び研究開発を実施するものとする。</p> <p>また、造幣局は、研究開発についての事前、中間、事後の評価を確実に行うものとし、その結果に基づき計画の必要な見直しを行うものとする。</p>
中期計画	<p>貨幣の偽造防止技術等の研究開発については、偽造抵抗力の向上に関する研究開発はもとより、貨幣製造技術及び勲章等の金属工芸品製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案します。これに基づき、費用対効果を勘案し、民間からの技術導入も含め、具体的な計画を策定し、調査及び研究開発を実施します。</p> <p>また、流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の種々の情報や金属加工及び試験分析等に関する幅広い分野の情報を調査・収集し、これらを整理してデータベース化するとともに、得られた情報を行政部門を含む国民各層に還元するなど積極的に業務に活用します。</p> <p>さらに、世界造幣局長会議をはじめとした貨幣製造技術や分析技術等に関する国際会議へ積極的に参加し、海外の貨幣製造技術や偽造防止技術等に関する最新の様々な情報を交換することにより、造幣事業に関する国際交流を図ります。</p> <p>中期目標の期間中、国内外の会議、学会等での発表・参画が50件以上となるように努めます。</p> <p>研究開発は、定期的実施する研究管理会議により、事前、中間、事後の評価を確実にを行い、その結果に基づき必要に応じて計画の見直しを行います。</p>
( 参 考 ) 年度計画	<p>貨幣の偽造防止技術等の研究開発については、偽造抵抗力の向上に関する研究開発はもとより、貨幣製造技術及び勲章等の金属工芸品製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画に従い、研究開発を行います。</p> <p>平成17年度の研究開発については、新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の3つを基本方針とします。この基本方針に基づき、費用対効果及び民間からの技術導入も勘案しながら平成17年度に実施する研究テーマ等の具体的な研究開発計画を策定し、調査及び研究開発を実施します。</p> <p>また、流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の種々の情報や金属加工及び試験分析等に関</p>

	<p>する幅広い分野の情報を調査・収集し、これらを整理してデータベース化するとともに、得られた情報を行政部門を含む国民各層に還元するなど積極的に業務に活用します。</p> <p>諸外国の造幣局との間において、偽造防止技術、貨幣製造技術及び分析技術等に関する最新の様々な情報を交換し、引き続き造幣事業に関する国際交流に努めます。</p> <p>国内外の会議、学会等での発表・参画の実績が、平成17年度中に10件以上となるよう努めます。</p> <p>研究開発は、造幣局内で定期的実施する研究管理会議により、事前、中間、事後の評価を確実にいき、その結果に基づき必要に応じて計画の見直しを行います。</p>								
<p>業務の実績</p>	<p><b>調査及び研究開発の基本計画の立案状況</b></p> <p>研究開発については、中期計画において、「新しい偽造防止技術の研究開発」、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」の3つを基本方針としており、平成17年度についてもこの方針に基づき、具体的な研究開発計画を策定した。</p> <p>なお、基本計画の詳細については別添「研究開発の基本計画と主要研究課題について」のとおりである。</p> <p><b>調査及び研究開発の具体的な実施計画の策定状況</b></p> <p>平成17年度の研究開発は、研究活動を、新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発、各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の3つに区分し、27件の研究テーマについて実施することとした。</p> <p>平成17年度の研究テーマを区分すると以下のとおり</p> <table data-bbox="414 1254 1308 1444"> <tr> <td>・新しい偽造防止技術の研究開発</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>・新製品開発に寄与する研究開発</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発</td> <td>13件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27件</td> </tr> </table> <p><b>調査及び研究開発の実施状況</b></p> <p>平成17年度における調査及び研究開発は、当初策定した実施計画のとおり27件の研究テーマについて行った（平成18年度に継続したもの16件、別のテーマに統合したもの2件、予定された研究成果が得られ完了したもの6件、予定された成果が見込まれず終了したもの3件）。</p> <p>その主な研究成果は次のとおりである。</p> <p>(1) 実用化、製品化されたもの：2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箔クラッドに関する研究成果が、テクノメダルシリーズ・プルーフ貨幣セット用の年銘板として製品化された。</li> <li>・七宝盛付けの自動化に関する研究成果が、瑞宝章身の自動盛付け技術と自動盛付け装置の技術移転に寄与した。</li> </ul>	・新しい偽造防止技術の研究開発	11件	・新製品開発に寄与する研究開発	3件	・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発	13件	計	27件
・新しい偽造防止技術の研究開発	11件								
・新製品開発に寄与する研究開発	3件								
・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発	13件								
計	27件								

(D) 実用化できるレベルに達したもの：2件

・微細加工に関する研究が、これまでの技術水準を超える二次元潜像の加工技術・実用化のための研究成果を挙げた。

・特定有害物質の分析技術に関しては、クロム、カドミウム、鉛の3元素について、日本分析化学会から「プラスチック中有害金属成分の分析技量」についての認証を受けた。

(H) 平成17年度中に大きな進展があったもの：1件

・トリメタルメダルの量産化技術に関する研究では、量産可能であることを確認するとともに、特許申請を行った（平成18年2月に特許申請）。

#### 種々の情報の調査・収集状況

企業、研究機関及び大学等の研究者・技術者から関連情報を調査・収集するとともに、講演会及び学会への参加を通じて、最新の情報を収集した。

さらに、世界造幣局長会議（MDC）技術委員会（注）海外造幣局、国際見本市、技術雑誌等からの情報収集も積極的に実施した。

平成17年度に実施した情報の調査・収集等の実績は次のとおりである。

・研究機関、大学への相談等	17件
・企業からの収集等	10件
・講演会、会議等の参加	20件
・各種学会への参加	4件
・国際見本市等	4件
・学会誌等からの情報の調査・収集	157件
・MDC技術委員会、アセアン造幣技術会議での情報の調査・収集	3件
・海外造幣局等からの情報の調査・収集	4件
計	219件

（注）世界造幣局長会議（MDC）技術委員会とは、MDCの委員会として特定の技術的な課題を研究するために設置されたもので、平成14年の第22回MDC（大阪開催）から平成16年の第24回MDC（サンフランシスコ開催）まで活動していた材料委員会をさらに発展させたもの。

#### 調査・収集した情報のデータベース化の状況

研究情報については、外部と切り離された専用ネットワークで構成された研究ファイル管理システムに入力するとともに、その他調査・収集した種々の技術情報については、技術情報システムへ入力し、各々データベース化を図った。

（内訳）平成17年度にデータベース化した情報815件の内訳

・研究報告等に関する資料：257件（例「複合材料等の検査メカニズムに関する研究」）

・貨幣の製造に関する資料：518件（例「溶解工程における技術調査」）

- ・装金、極印に関する資料： 21件（例「次世代金型技術」）
- ・試験、検定に関する資料： 19件（例「微量元素の蛍光X線分析」）

〔参考〕平成15年度507件、平成16年度208件

#### 得られた情報の、行政部門を含む国民各層への還元等の活用状況

造幣局ホームページにおいて、年銘別貨幣製造枚数一覧、記念貨幣一覧及び貨幣の製造工程といった貨幣に関する基本的な情報に加え、偽造・変造貨幣を見分けるための情報を提供するという観点から、500円ニッケル黄銅貨幣の偽造変造防止対策をわかりやすく紹介している。

また、貨幣に関する国民の様々な疑問に答えるためのQ & Aコーナー、工場見学・博物館見学・各種イベント開催のご案内、貨幣セット等新製品販売のお知らせを行うなど、インターネットを活用して種々の情報発信を行っている。

平成17年度は、これらの情報に加え、新たな研究成果についても、下記の3件の研究報告を追加掲載して紹介している。

- (イ) 箔クラッド材の応用技術に関する研究
- (ロ) チタン発色メダルの量産化技術の開発
- (ハ) 特定有害物質の分析技術に関する調査研究

#### 造幣事業に関する国際交流の状況

平成17年度の主な国際交流としては以下の5件がある。

MDCの運営会議に出席

- ・平成17年7月 MDC（米国・サンフランシスコ）
- ・平成18年2月 MDC（ドイツ・ベルリン）

MDC技術委員会の委員としての活動

- ・平成17年4月 MDC技術委員会（ドイツ・ミュンヘン）
- ・平成17年9月 MDC技術委員会（シンガポール）

ASEAN造幣局技術会議に参加

- ・平成17年9月にインドネシア（ジャカルタ）で開催されたASEAN造幣局技術会議に出席し、貨幣自動検査装置の開発状況について発表した。

MDCマーケティング委員会に参加

- ・平成17年7月 MDCマーケティング委員会（米国・サンフランシスコ）

各国造幣局等との意見交換

- (イ) 平成17年4月に欧州不正対策局の組織である欧州科学分析センター（フランス）を訪問し、偽造貨幣の現状、鑑定技術等について情報交換を行った。また、フランス造幣局を訪問し、貨幣製造技術等について情報交換を行った。
- (ロ) 平成17年10月に中国の造幣局を訪問し、貨幣の流通状況等の情報交換を行った。

(ハ) 平成 17 年 11 月及び平成 18 年 3 月に豪州の王立造幣局及びパース造幣局を訪問し、収集用貨幣の製造技術、販売方法及び品質管理体制等の情報交換を行った。

#### 国内外の会議・学会等での発表・参画件数

MDC 技術委員会（平成 17 年 4 月 12 日）

我が国造幣局がリーダーを務める MDC 技術委員会の下部組織である極印表面処理小委員会（ドイツ・ミュンヘンで開催された同委員会の会合に出席）において、各国での PVD 処理の使用状況等の調査結果を中間報告した。

アセアン造幣技術会議（平成 17 年 9 月 18 日）

インドネシア（ジャカルタ）で開催されたアセアン造幣技術会議に出席し、貨幣自動検査装置の開発状況について発表した。

（社）近畿化学協会との技術交流会を開催（平成 17 年 4 月 22 日）

当局から研究所の研究開発について説明を行い、協会から化学業界の現状等について説明を受ける等の情報交換を行った。

大阪大学工学部材料系学科との技術交流会開催（平成 17 年 5 月 23 日）

同大学工学部の担当教官と学生（75 人）に貨幣製造技術を中心に説明するとともに情報交換を行った。

日本分析化学会誌「ぶんせき」（7 月号）への論文掲載（平成 17 年 7 月）

「分析化学における熟練・技術貴金属の分析（乾式試金法を中心として）」

日本分析化学会の機関紙「ぶんせき」での熟練技術特集の 1 つとして、貴金属に関する熟練分析の執筆依頼があり、「ぶんせき」2005 年第 7 号の「特集 分析化学における熟練技術」に発表した。

日本トライボロジー学会（塑性加工分科会）を開催（平成 17 年 9 月 15 日）

造幣局にて開催された日本トライボロジー学会（塑性加工分科会）において、当局から「コインング用金型への微小突起模様の転写加工」について発表を行う等、塑性加工全般について情報交換を行った。

日本自動販売機工業会との技術交流会を開催（平成 17 年 11 月 25 日）

偽造貨幣及び流通貨幣の現状について情報交換を行った。

日本接着学会誌（2 月号）への論文掲載（平成 18 年 2 月下旬）

「ゾル・ゲル法による銀用無機ハイブリット保護コーティング」

銀製品の保護を目的とした低温で硬化するハードコーティングの開発において、ゾル・ゲル法を用いたアクリル/シリカ（有機/無機）複合コーティング剤の合成方法とその膜の銀表面への密着性について、X 線光電子分光装置による調査結果に基づき発表した。なお、本研究に関し平成 18 年 3 月に研究担当者が理学博士の学位を取得した。

硫酸協会第 45 回分析分科会（全国大会）での発表（平成 18 年 3 月 9 日）

「貴金属の分析」

日本分析化学会の機関紙「ぶんせき」での貴金属分析に関する記事に基づき、硫酸協会より講演依頼があり、灰吹分析法など造幣局が保有する貴金属分析技術について

発表した。

日本自動販売機工業会との技術交流会を開催（平成18年3月15日）  
自動販売機の普及状況について意見の交換を行った。

#### 研究開発の事前、中間、事後評価の状況

研究開発については、研究管理会議を開催し、課題の選定、対処策の検討、最終評価というプロセスを通じて、事前、中間、事後の評価を行った。

##### 1. 事前評価（平成17年6月23日、24日）

第1回研究管理会議において、平成17年度研究開発の課題選定等の妥当性について、重要度及び緊急度等を勘案して事前評価を実施するとともに、各研究テーマの達成すべき目標を明確化し、研究対象の十分な絞込みを行うことについて、議論を行った。

##### 2. 中間評価（平成17年11月10日、11日）

第2回研究管理会議において、各課題の進捗状況の妥当性について中間評価を実施するとともに、問題点について対処策の検討を行った。

なお、事業部（新製品の販売担当）から、チタン発色メダルの量産化技術の開発について仕様変更の要請があり、その趣旨に沿った研究方針となるよう、研究の進め方を変更することとした。

##### 3. 事後評価（平成18年2月23日、24日）

第3回研究管理会議において、各課題の研究成果及び今後の進め方等について議論を行い、最終評価を行った。

なお、研究管理会議の開催にあたっては、外部の専門家からのアドバイスを受けるため齋藤氏（大阪大学名誉教授）と永田氏（元大阪府立産業技術総合研究所主任研究員）の両名にも出席していただいた。

齋藤氏からは、初期の目標を着実に達成しつつあるとの評価を受けた。

#### 事後評価を踏まえた研究開発計画の見直しの状況

事後評価を踏まえ、27件のうち、6件については予定された成果が得られたので研究を完了し、2件については別の研究テーマに統合して研究を継続することとし、16件については研究途中のため平成18年度に継続することとした。残る3件については、予定された成果が見込まれないことから研究を終了した。

<p>評価の指標</p>	<p>調査及び研究開発の基本計画の立案状況          調査及び研究開発の具体的な実施計画の策定状況          調査及び研究開発の実施状況          種々の情報の調査・収集状況          調査・収集した情報のデータベース化の状況          得られた情報の、行政部門を含む国民各層への還元等の活用状況          造幣事業に関する国際交流の状況          国内外の会議・学会等での発表・参画件数          研究開発の事前、中間、事後評価の状況          事後評価を踏まえた研究開発計画の見直しの状況</p>	
<p>評価等</p>	<p>評 定</p>	<p>(理由・指摘事項等)</p> <p>新偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の三本の基本方針に基づき、具体的な開発計画の策定、調査・研究開発を実施している。</p> <p>流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の情報や金属加工・試験分析に関する幅広い情報を調査・収集し、これらをデータベース化(815件)するなど、従来より精力的に実施している。</p> <p>諸外国との国際交流、学会等での活動を適切に行い、偽造防止技術、貨幣製造技術及び分析技術などの最新の情報を交換し、交流に努めている。また、研究所の職員が理学博士の学位を取るなど、高いレベルの研究が行われている。</p> <p>外部からの事前・中間・事後の評価を受けるための研究管理会議は適切に運用されており、事後評価を踏まえ、27の関連テーマについて研究開発を行い、うち2件は実用化、製品化され、その他2件は実用化できるレベルに達した。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。</p>

別添

## 研究開発の基本計画と主要研究課題について

### 1. 研究開発の基本的な考え方

研究開発については、独立行政法人造幣局の中期計画及び年度計画に基づき、「新しい偽造防止技術の研究開発」、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」の3つを基本方針とし、中でも「新しい偽造防止技術の研究開発」は、平成16年度から偽造500円貨幣が多量に見つかっていること等を踏まえると、喫緊の最重要課題として取り組む必要がある。

また、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」についても、各事業の発展に寄与し得る新製品開発や技術開発に向けて、効率的かつ効果的な研究成果が得られるよう、鋭意取り組む必要がある。

さらに、これらの研究開発活動を促進する観点から、外部機関との連携の強化についても念頭におきつつ、具体的な研究開発計画を策定・実施していく。

### 2. 平成17年度の主要研究課題

#### (1) 平成17年度の研究課題

平成17年度の研究課題は、年度計画の基本方針、平成16年度との関連及び各部署からの要請を踏まえ27件を設定し、それぞれ完了の目途を掲げて鋭意取り組むこととしている。

その基本方針別の内訳は、次のとおりである。

- ・新しい偽造防止技術の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・ 11件
- ・新製品開発に寄与する研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・ 3件
- ・各事業分野に共通する合理化、効率化に寄与する研究開発・・ 13件

合計27件(内9件は新規)

なお、研究をより効率的かつ効果的に行う観点から、研究の基本方針並びに緊急度、効果度及び期待度を主な基準として、以下を重点課題とした。

#### 【重点課題】

- ・新しい偽造防止技術の研究開発
  
- ・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発
  - (イ) バイメタル貨幣の画像処理技術に関する研究
  - (ロ) PVD法による極印表面処理技術の実用化に関する研究

#### (2) 研究開発機能の確実な向上

- イ 実用性の重視



研究開発部門の役割としては、新技術等を製品に盛り込み、国民への提供、又は製造部門への確実な技術移転、の2点を通じてその任務を完了するものと考えている。最近の具体的な事例としては、銅箔クラッドのテクノメダルシリーズ・ブルーフ貨幣セット用年銘版としての製品化や瑞宝章身（小綬章、双光章）を対象とした七宝自動盛付け技術を確立し、自動盛付装置とともに製造部門へ技術移転を行ったことが挙げられる。

#### □ 的確な研究所運営

研究活動の運営にあたっては、研究管理会議を有効に活用して、外部有識者及び各部局から広く意見を求めることにより、的確に運営することとする。

大学及び公的研究機関との交流を通じて幅広く情報収集を行うとともに、職員の資質の向上を図る。

また、研究成果を当局職員へ紹介する場として研究発表会や、研究成果の展示等を行うことにより、研究職員の士気の高揚に努める。

以 上

## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（８）

大項目：2．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：(1) 貨幣の製造等

小項目： 貨幣の信頼を維持するために必要な情報の提供

中期目標	<p>貨幣への信頼維持のためには、貨幣の特徴など、貨幣に係る情報が国民にわかりやすく提供される必要がある。</p> <p>また、必要に応じて現金取扱機器の製造業者等に対し機密保持に配慮したうえで貨幣に関する情報が提供されることが求められる。</p> <p>このため、造幣局は、通貨関係当局と連携し、これらに必要な情報を提供するものとする。</p>
中期計画	<p>国民各層に造幣事業や貨幣に関する知識や理解を深めるため、造幣局のホームページにおいて貨幣の特徴等、各種情報の発信を行うとともにその内容も分かりやすく魅力的なものになるよう常に配慮します。</p> <p>また、工場見学の積極的な受入れ、造幣博物館の展示内容の充実及び地方博覧会等への出展とともに、桜の通り抜け等のイベントの機会を活用して、造幣局と国民が直接触れ合う機会を幅広く提供します。</p>
(参考) 年度計画	<p>国民各層に造幣事業や貨幣に関する知識や理解を深めてもらうため、造幣局のホームページにおいて貨幣の特徴等、各種情報の発信を行います。博物館コーナーを充実させることにより、その内容を分かりやすく魅力的なものになるようにします。</p> <p>また、工場見学の積極的な受入、造幣博物館の展示内容の充実及び地方博覧会等への出展とともに、桜の通り抜け等のイベントの機会を活用して、造幣局と国民とが直接触れ合う機会を幅広く提供します。</p>
業務の実績	<p><b>ホームページの内容の充実の状況</b></p> <p>平成17年度は、造幣局ホームページ利用者の利便性の向上を図るため、販売用貨幣等に関する情報を掲載している造幣局ホームページの「販売」コンテンツの充実を図るとともに、子供向けの「ぞうへいきよく探検隊」コンテンツに自由研究等に役立つような貨幣に関する情報を掲載するなど、情報提供の充実に努めた。</p> <p>(定期更新の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回： 6月に「貨幣セットの豆知識(近年発行された記念貨幣のデザインをはじめ、プルーフ貨幣・カラーコインの製造方法、これまでに販売した貨幣セット等を分かりやすく説明したもの)」を新たに掲載し、「販売」コンテンツを充実させた。</li> <li>・第2回： 8月に「データ」コンテンツ内に掲載している貨幣セット関係情報の更新を行うとともに、ページレイアウトの見直しを行い、より見やすくした。また、夏休みの学習の参考になるよう子供向けの「ぞうへいきよく探検隊」コンテンツに現在製造している貨幣のデザインや素材についての説明を掲載した。この</li> </ul>

ほか、造幣博物館で開催した特別展・夏休み親子教室や広島支局展示室で開催した特別展の様様を紹介するとともに、本局において新たに企画した親子工場見学の申込受付をホ - ムペ - ジで行った。

- ・第3回： 10月に英語版ホームページの「Sales」コンテンツに金属工芸品を新たに掲載するとともに、販売品(貨幣セット、記念貨幣、金属工芸品)ごとに見やすいレイアウトにした。また、受章された方々に対し略小勲章の製造・販売について新たに掲載した。
- ・第4回： 12月に2000年から2004年までの国際コイン・デザインコンペティション(ICDC)に入賞したデザインを掲載した。また、組織図や案内図等に印刷用ページ(PDF)を設け、ホームページ利用者の便宜を図った。
- ・第5回： 3月に「販売」コンテンツのデザイン等を一新し、同コンテンツの充実を図った。また、桜の通り抜け等の新聞発表にあわせ、「桜の通り抜け / 花のまわりみち」コンテンツのデザイン等を更新した。

#### ホームページによる情報提供の状況

1. ホームページによる情報提供サービスとして、配信を希望する顧客には、新しい貨幣セットの販売情報、イベントの開催情報及びホームページの更新情報を、その都度配信(メールマガジン)しているところであるが、メールマガジンの認知度を上げるため、平成16年度に引き続き顧客サービス室がイベント等で毎年実施しているアンケートの中で周知宣伝を行った。
2. 当局が新聞発表をしたイベントの開催や貨幣セット販売開始等の情報を、発表後直ちにホームページに掲載し、情報を迅速に伝えるようにした。

平成17年度における造幣局ホームページへのアクセス件数は、654,947件となった。

(参考) 過去5年間のホームページのアクセス件数  
(件)

12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
172,725	237,412	564,132	678,543	830,195	654,947

#### 工場見学の受入の状況

工場見学の積極的な受入れを図るため、工場見学に関する取材等に対しては積極的に応じ、情報誌やホームページなどに記事が掲載されるよう努めたほか、造幣局IN等のイベント会場においても工場見学を紹介したリーフレットを配布し積極的にPRを行った。

本局では、工場見学の周知のため、(財)大阪観光コンベンション協会の観光施設一覧やそのホームページ、子供向けウェブサイトへの工場見学案内の掲載、造幣局IN盛岡・造幣局IN大分(後援:九州財務局及び大分県金融広報委員会)やお金と切手の展覧会でのリーフレットの配布、日本銀行大阪支店展示室及び三菱東京UFJ銀行貨幣資

料館でのリーフレットの常置、大阪府下の小・中学校（小学校 746 校、中学校 341 校）へのDMの送付を行った。

また、平成 17 年 6 月に開催された大阪コインショー会場で、造幣事業の紹介及び工場見学の周知の一環として、入場者に対し「工場見学会」の申込受付をし、特別に工場見学を実施したほか、8 月には夏休みの子供を対象に親子工場見学を開催、夏休みと春休みに行われた日本銀行大阪支店や大阪証券取引所が主催する子どもの金融・株式スクール（見学会）に協力し、見学者を受け入れた。さらに、見学者の要望に応じて見学コースに標準コースと短縮コースを設定し、利用者のニーズに沿うようにした。

東京支局では、地元の区役所等のほか新たに国立印刷局「お金と切手の博物館」、豊島区観光情報センター及び日本銀行金融研究所「貨幣博物館」にリーフレットを常置してもらった。

広島支局では、広島展示室特別展でリーフレットを配布し、また新たに佐伯区内の各公民館（18 ヶ所）、佐伯区民文化センター及び広島市郷土資料館（南区）にリーフレットを常置してもらった。

平成 17 年度の工場見学者数は、49,350 人となった。

（参考） 過去 5 年間の工場見学者数

						（人）
12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
41,300	41,623	40,626	47,166	46,674	49,350	

#### 造幣博物館の展示内容の充実の状況

わかりやすく魅力的な博物館とすべく博物館の一部レイアウトを変更するとともに、子供にも理解できるよう説明文の漢字にルビを付け読み易い文章にした。

また、見学者に配布する博物館のリーフレットを全面的に改訂した。

さらに、造幣博物館の収蔵品を広く国民に紹介するため、4 回の特別展を開催し、国民と直接触れ合う機会を設け、開催期間中はできるだけ多くの方々に来ていただくよう土日祝日も開館した。また、近隣で開催された第 3 回大阪コインショー - に協賛して土日開館した。

なお、夏休みと春休み（春休みは平成 17 年度から新たに実施）期間中及び土日開館日には、ミニ講座（約 15 分程度を 1 日 4 回～ 6 回）を実施した。

(表) 平成17年度に開催した特別展と土日開館した常設展示

イベント	日程	入館者数
陽の目を見なかったまぼろしの『陶貨幣』展(特別展)	平成17年8月18日～8月31日	1,908人
1円アルミニウム貨幣誕生50周年記念展(特別展)	平成17年11月18日～11月24日	1,316人
桜の通り抜け今年の花と記念メダル回顧展(特別展)	平成18年1月13日～1月19日	796人
写真で見る桜の通り抜け回顧展(特別展)	平成18年3月17日～3月30日	2,407人
第3回大阪コインショー(土日開館による常設展示)	平成17年6月24日～6月26日	506人

平成17年度の造幣博物館入館者数は、45,046人となった。

(参考) 過去5年間の造幣博物館の入館者数

(人)					
12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
42,089	41,944	42,142	44,653	46,962	45,046

## 国民と直接触れ合う機会の設定の状況

### 1. 造幣局IN等のイベント

イベント	日程	入場者数
造幣局主催		
桜の通り抜け	平成17年4月13日～4月19日	1,147,000人
花のまわりみち	平成17年4月20日～4月26日	76,784人
造幣局IN盛岡	平成17年7月21日～7月26日	5,479人
陽の目を見なかったまぼろしの『陶貨幣』展(特別展)	平成17年8月18日～8月31日	1,908人
第12回造幣東京フェア	平成17年10月8日～10月10日	5,494人
1円アルミニウム貨幣誕生50周年記念展(特別展)	平成17年11月18日～11月24日	1,316人
桜の通り抜け今年の花と記念メダル回顧展(特別展)	平成18年1月13日～1月19日	796人
造幣局IN大分	平成17年2月23日～2月28日	8,930人
写真で見る桜の通り抜け回顧展(特別展)	平成18年3月17日～3月30日	2,407人
造幣局出展		
和歌山商工まつり	平成17年10月8日～10月9日	
佐伯区民まつり	平成17年11月13日	
造幣局後援(他団体主催)		
東京コインコンヴェンション	平成17年4月29日～5月1日	
第3回大阪コインショー	平成17年6月24日～6月26日	
お金と切手の展覧会	平成17年8月17日～8月23日	5,799人

### 2. 出張講演

当局の職員が、造幣博物館に収蔵されている貨幣(和銅開珎から大判・小判等の古銭)や造幣局が製造してきた貨幣及びお金にまつわる話について行った講演の平成17年度における実績は下記の18件である。

(表) 平成17年度における出張講演の実績

出張講演先	講演日	参加者
1. 老人大学北同窓会豊中支部	平成17年4月4日	54人
2. 都島区老人福祉センター	平成17年4月27日	30人
3. 川西市立東谷中学校2年生	平成17年5月20日	13人
4. 香川NHK文化センター	平成17年6月10日	30人
5. 第3回大阪コインショ - 参加者	平成17年6月24日	52人
6. 造幣局IN盛岡	平成17年7月23日	60人
7. 川西市公民館親子教室	平成17年7月29日	50人
8. 枚方市立さだ小学校	平成17年8月6日	20人
9. 株式会社リロクラブ(親子ペア)	平成17年8月11日	55人
10. 夏休み親子教室(事業案内企画)	平成17年8月19日	65人
11. 博物館特別展と親子教室	平成17年8月18日～ 31日の土日開館日	86人
12. 三重県菟野町教育委員会市民講座	平成19年10月15日	80人
13. 住之江区老人福祉センター	平成17年10月28日	36人
14. 広島佐伯区民祭り(広島支局展示室)	平成17年11月13日	100人
15. 博物館特別展と親子教室	平成17年11月19日 ～20日の土日開館	85人
16. ヒコ・みづのジュエリ - カレッジ	平成17年11月30日	150人
17. 四天王寺仏教文化講演会	平成18年3月11日	120人
18. 博物館特別展と親子教室	平成18年3月17日～ 30日の土日開館日	120人

延べ参加者 1,206人

### 3. 事業案内ビデオの貸出し

貸出用の造幣局事業案内ビデオを作成し、平成17年4月から貸出しを開始した。この周知のため、ホームページにビデオ貸出について掲載するとともに、大阪市立小・中学校(小学校304校、中学校130校)にDMを送付した。

この結果、平成17年度には31件の貸出しを行った。

### 4. 工場見学会の実施

イベントや子どもの夏休み・春休みに合わせた工場見学会を企画し実施した。

- ・大阪コインショー工場見学会(平成17年6月)(52人)
- ・夏休み親子の工場見学会(平成17年8月)(午前・午後2回で74人)
- ・夏休み親子の金融・株式スクール(平成17年8月)(124人)
- ・春休み親子の金融・株式スクール(平成18年3月)(87人)

<p>評価の指標</p>	<p>ホームページの内容の充実の状況          ホームページによる情報提供の状況          工場見学の受入の状況          造幣博物館の展示内容の充実の状況          国民と直接触れ合う機会の設定の状況</p>	
<p>評価等</p>	<p>評定</p>	<p>(理由・指摘事項等)</p> <p>ホームページの国民向け販売製品コンテンツを、子供用も含め充実させると共に、タイムリーな更新を行うことにより、引き続き有効な情報提供等のサービスを続けている。</p> <p>工場見学を積極的に受け入れるため、標準コースと短縮コースを設定するなど、見学者の利便性に向けた取り組みが積極的に行われている。また、工場見学者の着実な増加に見られるように、造幣博物館の展示内容の充実努力等により国民の造幣局への理解が進むことに多いに寄与している。</p> <p>A          ホームページの内容拡大等によるアクセス件数は過去5年間増加の一途であったが、今年度は、記念コインが無かったこと等の理由でホームページへのアクセス件数が減少しているが、情報提供全般では、目標を達成できている。</p> <p>今までの造幣局に対する信頼は過去に築かれた財産であり、今後、造幣局ブランドをどのようにイメージづけるかと、そのイメージの浸透策の研究を期待したい。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。</p>

## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（ 9 ）

大項目： 2 . 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： ( 1 ) 貨幣の製造等

小項目： 貨幣の販売

中期目標	<p>造幣局は、購入者としての国民の要望に応えるため、貨幣セットの種類及びクレジット決済やコンビニエンスストアでの支払いなど代金支払方法の多様化を図るなど、国民へのサービスの拡充に努めるものとする。また、海外での販路拡大に努めるとともに、店頭販売のあり方について検討を進めるものとする。また、販売にあたっては、採算性の確保を図るものとする。</p> <p style="text-align: center;">(注)貨幣セットとは、未使用の貨幣を容器に組み入れ、造幣局が販売するものをいう。</p> <p>造幣局は、貨幣セットが国民の要望に込えているかを測定する指標として、貨幣セットの購入者に対し、満足度調査を実施するものとし、その結果を代金支払方法の改善等のサービス向上に活かすものとする。</p> <p>記念貨幣については、購入希望者が購入機会を均等に得られるよう公平な販売を行い、財務大臣が定めた数量を確実に販売するものとする。</p>
中期計画	<p>貨幣セットの販売に関しては、採算性の確保を図りつつ、国民のニーズに的確に対応できるよう努めます。また、海外ディーラーの拡大や海外における展示会への参加等により、貨幣セットの海外での販路拡大に努めます。</p> <p>イ . 国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売</p> <p>時代や世代を超えて国民の間に流行しているキャラクターや子供に人気のあるキャラクターを貨幣セットのパッケージや年銘板にアレンジするなど、新しい発想による貨幣セットの開発に取り組み、中期目標の期間中、5件以上の新製品開発に努めます。</p> <p>支払方法の多様化を図るため、コンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済等を導入し、サービス向上に努めます。</p> <p>また、近年の社会状況やコスト面を考慮し、インターネットによる販売等、適切な販売方法のあり方について検討を行います。</p> <p>さらに、国民のニーズを的確に把握するため、貨幣セット等の購入者及び公共イベントへの出展時の来客者をはじめとする顧客に対し、マーケティングのためのアンケート調査を実施し、満足度調査としては5段階評価で平均して4.0以上の評価が得られるよう努めます。アンケート調査の結果は、ミントセット、ブルーフ貨幣セット及び記念貨幣を含む貨幣セットに対する国民のニーズや市場動向の的確な把握に努め、国民へのサービス向上に活かします。</p> <p style="text-align: center;">(注)ミントセットとは、1円から500円までの未使用の通常貨幣と、製造年度を表す年銘板をセットにしてケースに収納したものをいいます。</p>



	<p>ロ．記念貨幣の適正公平な販売</p> <p>国家的な記念事業として発行される記念貨幣については、新聞広告等による案内や厳正な抽選方法により、購入の機会ができるだけ多くの国民に適正公平に与えられるようにするとともに、財務大臣が指定する数量の貨幣を確実に販売します。</p>
<p>(参考) 年度計画</p>	<p>貨幣セットの販売に関しては、採算性の確保を図りつつ、国民のニーズに的確に対応するよう努めます。また、海外ディーラーの活用方法をさらに一歩前進させるべく、ワールドマネーフェア等海外における展示会等へ積極的に参加するなど、貨幣セットの海外での販路拡大に努めます。</p> <p>イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売</p> <p>平成17年度においても、貨幣セットのパッケージに新しい工夫を施した、これまでに無い貨幣セットの開発に取り組み、平成17年度中に1件以上の新製品開発を行います。このほか、国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売に努めます。</p> <p>また、より一層のサービス向上を図るために平成15年度から実施した、コンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済、さらにインターネット販売や決済については、国民のニーズに応えられるよう、引き続き利便性の向上に努めます。</p> <p>さらに、国民のニーズを的確に把握するため、貨幣セット等の購入者及び公共イベントへの出展時の来客者をはじめとする顧客に対し、マーケティングのためのアンケート調査を実施し、満足度調査としては5段階評価(1:不満足、5:満足)で平均して4.0以上の評価が得られるよう努めます。アンケート調査の結果は、貨幣セットに対する国民のニーズや市場動向の的確な把握と国民へのサービス向上に活かします。</p> <p>ロ．記念貨幣の適正公平な販売</p> <p>国家的な記念事業として発行される記念貨幣については、新聞広告等による案内や厳正な抽選方法により、購入の機会ができるだけ多くの国民に適正公平に与えられるようにするとともに、財務大臣が指定する数量の貨幣を確実に販売します。</p>
<p>業務の実績</p>	<p>イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売</p> <p><b>国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売状況</b></p> <p>国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売を行うとの方針の下、世界文化遺産に登録された「世界文化遺産貨幣セット(紀伊山地の霊場と参詣道)」を販売したところ、多数の申込みがあり、10万セットの販売予定数に対し、約12.6万セットを販売した。</p> <p>また、国民に人気の高いキャラクターの貨幣セットとして、「ドラえもん誕生35周年記念2005プルーフ貨幣セット」を5万セットの販売予定数に対し約6万セットを販売するなど、より多くの国民に喜ばれる製品の販売に取り組んだ結果、年度計画を上回る販売実績を計上した。</p>

【貨幣セット等の販売状況】

区分	年度計画		販売実績	
	セット数	金額(千円)	セット数	金額(千円)
ミントセット	946,000	1,809,904	1,116,292	2,114,449
うち簡易型立体スコープ入り(世界文化遺産セット(紀伊山地))	(100,000)	(180,952)	(126,498)	(228,896)
ブルーフ貨幣セット	280,000	2,365,238	266,048	2,570,479
うちキャラクターメダル入り(ドラえもん誕生ブルーフセット)	(50,000)	(619,048)	(60,000)	(742,974)
記念貨幣セット	0	0	1,537	34,618
計	1,226,000	4,175,142	1,383,877	4,719,546

(注) 記念貨幣セット：平成16年に発行された日本国際博覧会記念金銀貨セット、同1千円銀貨幣セット、同1万円金貨幣セット及び中部国際空港開港記念500円銀貨幣セット

貨幣セットの新製品開発

平成17年度における新製品として、新たな発想により、ケースに組み込んだ簡易型立体スコープを用いて、セットに収納した写真を3Dで見られるように工夫を施した「世界文化遺産貨幣セット(紀伊山地の霊場と参詣道)」を販売した。

さらに、キャラクター貨幣セットとして、新たな発想による特製ケース入りの「ドラえもん誕生35周年2005貨幣セット」を販売した。この貨幣セットは、ケースの形状がキャラクターに模したフォトスタンド型の収納容器となっており、ケースを開くとキャラクター特有のメロディーが流れ、そのイメージを視覚だけでなく聴覚にも伝わるように工夫を施したものである。

〔参考〕販売実績数量

- ・世界文化遺産貨幣セット(紀伊山地の霊場と参詣道)  
12万6千セット(販売予定数10万セット)
- ・ドラえもん誕生35周年2005貨幣セット  
18万2千セット(販売予定数20万セット)

支払方法多様化への取組状況

通信販売による代金の支払方法については、平成15年度から多様化を図り、従来の銀行振込による支払方法に加え、郵便振込、コンビニエンスストアでの入金、インターネット販売でのクレジットカード決済による支払方法を追加した。

平成17年度の通信販売入金状況(〔参考〕「通販決済方法別入金状況」参照)においても、平成16年度に引き続き、郵便振込が約6割、コンビニエンスストアでの入金が約4割を占めており、新支払方法が確実に定着したことがうかがえる。

〔参考〕

【通販決済方法別入金状況】

決済方法	平成17年度	
	件数(件)	割合(%)
郵便振込	504,960	60
コンビニ払込	322,981	39
銀行振込	4,909	1
クレジットカード決済	1,910	0
計	834,760	100

貨幣セットの海外での販路拡大への取組状況

貨幣セットに関する海外用販売プログラムを海外ディストリビューター(海外コインディラー)に送付し、積極的な販売促進活動を実施した。

また、ANA世界貨幣フェア(アメリカ・サンフランシスコ)、北京国際貨幣博覧会(中国)、ベルリンワールドマネーフェア(ドイツ)及び東京国際コイン・コンヴェンションといった国内外で開催される国際マネーフェアに参加し、各種貨幣セットを展示・販売することにより当局製品の周知宣伝を図るとともに、海外ディストリビューターと積極的に商談の場を持った。

これらの結果、海外に対する売上は、総額では記念貨幣の発行のあった平成16年度に比べて減少したものの、記念貨幣を除く売上では1千万円強の増となった。その主な原因としては、キャラクター貨幣セットのドラえもん関連製品がアメリカ、アジアで好評を博したことが挙げられる。また、イタリア、ニュージーランドの海外ディストリビューター2社と新規取引を開始することができた。

さらに、オーストラリア・パース造幣局の要請に基づき、日豪交流年を記念するプルーフ貨幣セットについて共同企画を計画し、同セットに組み込むオーストラリア記念銀貨幣に関する国際販売権契約を締結した。

インターネット販売等適切な販売方法のあり方の検討状況

造幣局ホームページの国内向けと海外向けの販売コーナーで紹介している貨幣セットや金属工芸品等の製品をより見やすくするため、製品構成やページレイアウトを見直すなどのリニューアルを行い、利用者に対する利便性の向上を図った。

アンケート調査の実施状況

国民のニーズを的確に把握するため、公共イベントへの出展時の来客者及び貨幣セット等の購入者に対し、以下のとおりアンケート調査を実施した。

(イ) イベント来客者を対象としたアンケート調査

全国のイベント会場で7回にわたり、来場者を対象にアンケート用紙を配布のうえ、貨幣セットの出来栄等について調査を実施し、2,156名から回答を得、有益なデータ収集ができた。

(ロ) 貨幣セット等の購入者を対象としたアンケート調査

貨幣セットの購入者から無作為に抽出した1,600人を対象に平成18年1月から2月にかけて貨幣セットの出来栄やデザイン、ハローダイヤルの利用状況等を内容とするアンケート調査を実施し、1,237人から回答を得、貨幣セット、ハローダイヤルの満足度などについて有益なデータ収集ができた。

(別添「顧客満足度に関するアンケート調査結果(平成17年度)」参照。)

**アンケート調査結果への対応状況**

アンケート調査結果では、日本の歴史、文化、芸術を題材にした貨幣セットの販売に対する要望が多いという評価を踏まえて、世界文化遺産セット(紀伊山地の霊場と参詣道)の製品開発を行うとともに、平成18年銘ジャパンコインセットの外装紙のデザイン決定に際し、国宝の城をデザインに採用した。

また、カラフルな貨幣セット、アニメキャラクターを題材にした貨幣セットの販売に対する要望が多いという評価を踏まえて、ドラえもん誕生35周年を記念した貨幣セットの製品開発を行った。

**顧客に対する満足度**

平成17年度に実施した公共イベント等への出展時における来客者に対するアンケート調査での顧客満足度は5段階評価で4.4であり、また、貨幣セット等の購入者に対するアンケート調査での顧客満足度は5段階評価で4.1であった。

両アンケート調査結果を平均した顧客満足度は5段階評価で4.3となり、目標の4.0以上を達成した。

ロ. 記念貨幣の適正公平な販売

**公平な記念貨幣購入機会の提供状況**

平成17年度において、当該記念貨幣の発行がなかったため、実績なし。

**財務大臣が指定する数量の確実な販売状況**

平成17年度において、当該記念貨幣の発行がなかったため、実績なし。

<p>評価の指標</p>	<p>イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売  国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売状況  貨幣セットの新製品開発  支払方法多様化への取組状況  貨幣セットの海外での販路拡大への取組状況  インターネット販売等適切な販売方法のあり方の検討状況  アンケート調査の実施状況  アンケート調査結果への対応状況  顧客に対する満足度</p> <p>ロ．記念貨幣の適正公平な販売  公平な記念貨幣購入機会の提供状況  財務大臣が指定する数量の確実な販売状況</p>	
<p>評価等</p>	<p>評定</p> <p>A +</p>	<p>(理由・指摘事項等)</p> <p>貨幣セットの販売面では、世界文化遺産貨幣セットなど国民の需要に応える型で、新商品開発や販売方法、支払方法の多様化を行ったことは評価できる。独立行政法人となってから最も活性化し、業績が上がったものであり、独立行政法人化の成功した典型である。</p> <p>イベント来客に対してアンケートを実施し、商品開発に繋げ成功させたことや、顧客満足度アンケートでは目標の4を上回る結果を得ており、評価できる。</p> <p>海外での販路拡大に取り組んだところであるが、今後も販売努力を続け、また、造幣局ブランドイメージの確立と新商品の開発が期待される。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をA + とする。</p>

## 平成17年度顧客満足度に関するアンケート結果

## 1. 公共イベント等への出展時における来局者に対するアンケート

## (1) 貨幣セットに関するアンケートを実施した催事名及び回答者数

催 事			造幣販売所 来場者数	アンケート 回答者数	質問の番号
催 事 名	開催場所	期 間			
花のまわりみち	広島支局	4/20～26(7日間)	未調査	346	
大阪コインショー	大阪市OAPタワービル	6/24～26(3日間)	未調査	232	
造幣局iN盛岡	盛岡市バルクアベニューカウト	7/21～26(6日間)	5,479	346	
お金と切手の展覧会	郡山市うすい百貨店	8/17～23(7日間)	5,799	420	
わかやま商工まつり	和歌山ビッグホエール	10/8～9(2日間)	未調査	147	
造幣東京フェア	東京支局	10/8～10(3日間)	5,494	343	
造幣局iN大分	大分トキ八百貨店	2/23～28(6日間)	8,930	322	
合 計			25,702	2,156	

## (2) 質問別のアンケート結果

質問 番号	質 問 内 容	良い 5	やや良い 4	どちらでもない 3	やや良くない 2	悪い 1	延べ回答者数	顧客評価 (平均値)
	各イベントの貨幣セットをどのように思われますか	1,248人 63%	508人 26%	206人 10%	19人 1%	6人 0%	1,987人	4.5
	販売コーナーをどのように思われますか	1,366人 64%	544人 26%	207人 10%	18人 1%	2人 0%	2,137人	4.5
	平成17年銘記念日セットをどのように思われますか	192人 56%	84人 24%	56人 16%	8人 2%	4人 1%	344人	4.3
	平成17年銘ジャパンコインセットをどのように思われますか	164人 48%	94人 28%	79人 23%	3人 1%	2人 1%	342人	4.2
	世界遺産(紀伊山地の霊場と参詣道)セットをどのように思われますか	108人 48%	69人 31%	43人 19%	1人 0%	2人 1%	223人	4.3
	敬老セットをどのように思われますか	72人 32%	70人 31%	75人 33%	7人 3%	2人 1%	226人	3.9
	ドラえもん誕生ミントセットをどのように思われますか	428人 58%	177人 24%	132人 18%	4人 1%	1人 0%	742人	4.4
	ドラえもん誕生ブルーセットをどのように思われますか	413人 56%	184人 25%	125人 17%	7人 1%	5人 1%	734人	4.4
	ミントセットをどのように思われますか	86人 61%	29人 21%	25人 18%	0人 0%	1人 1%	141人	4.4
	テクノメダルシリーズブルーセットをどのように思われますか	79人 57%	34人 25%	23人 17%	2人 1%	1人 1%	139人	4.4
	1円アルミニウム貨幣誕生50周年ブルーセットをどのように思われますか	196人 57%	106人 31%	37人 11%	3人 1%	1人 0%	343人	4.4
	平成18年銘記念日セットをどのように思われますか	213人 67%	68人 22%	35人 11%	1人 0%	0人 0%	317人	4.6
	平成18年銘ジャパンコインセットをどのように思われますか	188人 61%	79人 26%	41人 13%	0人 0%	0人 0%	308人	4.5
合 計		4,753人 60%	2,046人 26%	1,084人 14%	73人 1%	27人 0%	7,983人	4.4

## 2. 貨幣セット購入者に対するアンケート(回答者数:1,237人)

質 問 内 容	大変よい (便利になった)	ややよい (やや便利になった)	普通 (変わらない)	ややよくない (あまり便利でない)	よくない (便利でない)	延べ回答者数	顧客評価 (平均値)
テクノメダルシリーズ・ブルー貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	299人 25%	580人 49%	287人 24%	16人 1%	2人 0%	1,184人 100%	4.0
1円アルミニウム貨幣誕生50周年ブルー貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	398人 33%	541人 45%	244人 20%	14人 1%	4人 0%	1,201人 100%	4.1
ドラえもん誕生35周年貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	484人 40%	508人 42%	196人 16%	22人 2%	5人 0%	1,215人 100%	4.2
世界自然遺産(知床)貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	296人 24%	473人 39%	407人 33%	34人 3%	7人 1%	1,217人 100%	3.8
ハローダイヤルの評価をお聞かせください	51人 60%	25人 29%	4人 5%	3人 4%	2人 2%	85人 100%	4.4
合 計	1,477人 31%	2,102人 44%	1,134人 24%	86人 2%	18人 0%	4,817人 100%	4.1

公共イベント等への出展時における来場者に対するアンケート調査結果【顧客満足度平均値:4.4(回答者数:2,156人)】、及び貨幣セット購入者に対するアンケート調査結果【顧客満足度平均値:4.1(回答者数:1,237人)】を単純平均すると平成17年度における顧客満足度調査の結果は4.3であった。

## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（１０）

大項目： 2 . 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： （１）貨幣の製造等

小項目： 地金の保管

中期目標	造幣局は、財務大臣から委託された地金の保管業務を確実に実施するものとする。	
中期計画	政府から保管を委託されている貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、万全の注意を払い、より高い安全性の下で適切な管理及び保管を行い、今後とも保管地金の亡失ゼロを維持します。	
（参考） 年度計画	政府から保管を委託されている貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、万全の注意を払い、より高い安全性の下で適切な管理及び保管を行い、保管地金の亡失ゼロを維持します。	
業務の実績	<p style="color: blue; margin: 0;">保管地金の適切な管理及び保管の状況</p> <p style="margin: 0;">財務大臣から保管を委託された貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、下記事項を確実に実行し、地金保管に万全を期した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地金保管庫等における施錠・警報装置の確認及び個人認証システム等による入退室者のチェックを確実に実行した。</li> <li>・ 日々の地金の入出庫を常に帳票等で把握し、受払いごと及び月末に保管地金の在庫確認を行った。</li> <li>・ 保管地金管理に万全を期すとともに、毎月の財務局による保管地金の確認検査に合格した。</li> </ul> <p style="color: blue; margin: 10px 0 0 0;">保管地金の亡失の有無</p> <p style="margin: 0;">保管地金の亡失なし。</p>	
評価の指標	<p style="margin: 0;">保管地金の適切な管理及び保管の状況</p> <p style="margin: 0;">保管地金の亡失の有無</p>	
評価等	評 定	（理由・指摘事項等）
	A	財務省から、保管を委託された貨幣回収準備資金に属する地金について、引き続き万全の注意が払われ、適切に保管し、保管地金の亡失は発生しなかったことから、本項目の評定をAとする。

## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（１１）

大項目： 2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： (2) 勲章等の製造等

小項目： 勲章等及び金属工芸品の製造等

中期目標	<p>造幣局は、採算性の確保に向け効率化を図りつつ、製造に係る高度な技術の維持向上に努めるとともに、栄典制度の変更による勲章等の製造数量の増加に的確に対応し、確実に製造を行うものとする。</p> <p style="text-align: center;">（注）「勲章等」とは、勲章、褒章、賜杯、記章及び極印をいう。</p> <p>また、造幣局は、金属工芸品について、採算性の確保に向け効率化を図りつつ、製造に係る高度な技術の維持向上に努めるとともに、購入者の要望に応えるため商品の多様化や海外での販売について取り組むものとする。</p>
中期計画	<p>イ．勲章の製造</p> <p>勲章は、国家が与える栄誉を表象する重要な製品であり、美麗・尊厳の諸要素を兼ね備えたものであることが要求されます。従って引き続き精巧な技術と細心の注意を払って熟練した職員の手により確実に製造します。</p> <p>また、14年8月に行われた栄典制度の改革により、新たな勲章の製造や数量の増加等が予想されますが、これらに対しても確実に対応します。</p> <p>そのため、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承と職員の技術向上が必要不可欠であるため、OJT（職場内教育）に加え、各種の研修を実施します。</p> <p>一方で、受注数量の多い勲章の機械化が可能な部分については極力マシニングセンタ等の自動化機械を利用する等、採算性の確保に向けた製造工程の効率化を図ります。</p> <p>ロ．金属工芸品の多様化等</p> <p>金属工芸品については、幅広い国民のニーズに応えるため、製品の多様化、高品質化を推進します。具体的には高度な勲章製造技術で培われてきた技術を生かした高付加価値製品や貨幣セットと組み合わせた製品の検討等を行い、中期目標の期間中、5件以上の新製品開発に努めます。</p> <p>また、金属工芸品には多品種少量生産のものが多く、勲章の場合と同様に可能な部分については極力機械化を進める等、採算性の確保に向けた効率化を図ります。</p> <p>さらに、造幣局の優れた金属工芸品製造技術を広く海外に紹介し、海外での販売に取り組めます。</p>
（参考） 年度計画	<p>イ．勲章の製造</p> <p>勲章は、国家が与える栄誉を表象する重要な製品であり、美麗・尊厳の諸要素を兼ね備えたものであることが要求されることから、精巧な技術と細心の注意を払って熟練した職員の手により確実に製造します。</p>



	<p>また、栄典制度の改革に伴い、平成15年度からは新しい勲章の製造を行っているところですが、平成17年度も確実に対応します。</p> <p>そのため、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承と職員の技術向上が必要不可欠であるため、OJT（職場内教育）に加え、外部研修機関への職員の派遣を行います。</p> <p>一方で、勲章の製造工程のうちで機械化が可能な部分については極力マシニングセンタやワイヤ放電加工機等の自動化機械を利用して省力化に努める等、採算性の確保に向けた製造工程の効率化を図ります。</p> <p>ロ．金属工芸品の多様化等</p> <p>金属工芸品については、幅広い国民のニーズに応えるため、製品の多様化、高品質化を推進します。具体的には高度な勲章製造技術で培われてきた技術を生かした高付加価値製品や貨幣セットと組み合わせた製品の検討等を行い、平成17年度中に1件以上の新製品開発を行います。従来から行ってきた、桜の通り抜けメダルの他にも各種イベント等に合わせたメダル等の販売に努めるとともに、受注活動についても積極的に展開していきます。</p> <p>また、金属工芸品には多品種少量生産のものが多く、勲章の場合と同様に可能な部分については極力マシニングセンタ等による機械化による省力化に努める等、採算性の確保に向けた効率化を図ります。</p> <p>さらに、ワールドマナーフェア等の機会を利用して、七宝製品等を展示することなどにより、造幣局の優れた金属工芸品製造技術を広く海外に紹介し、海外販売につなげる努力をします。</p>
<p>業務の実績</p>	<p>イ．勲章の製造</p> <p><b>勲章の確実な製造の状況</b></p> <p>内閣府賞勲局との間で締結した勲章製造請負契約に基づき、29,748個の製造を行い、各月の設定された納期内に確実に製造、納品した。</p> <p><b>新たな勲章への確実な対応の状況</b></p> <p>平成15・16年度の製造を通じて新勲章の的確な製造体制の構築は完了しており、平成17年度は、この製造体制を維持し、マシニングセンタ及び七宝自動盛付機等の自動化機器を活用して一層の効率化を図り、29,748個（平成15・16年度は、いずれも29,253個）を確実に製造した。</p> <p>（注）勲章製造実績の個数は、個数ベースを基本に、複数の構成部品からなる製品については1個として計上した。</p> <p><b>伝統技術の維持・継承と職員の技術向上の状況</b></p> <p>1．芸術大学への派遣</p> <p>上級工芸研修として、東京芸術大学工芸科（鍛金研究室）に職員1人を平成17</p>

年4月から平成18年1月まで派遣した。

## 2. 外部講師による研修

中級工芸研修（研修所）として、外部講師による有線七宝課程、鍍金課程と彫金課程の研修を実施した（各1人）。

## 3. 技能向上のための技能検定受験

技能向上のため、積極的に技能検定を受験させた結果、

- ・ 貴金属装身具技能検定1級受験 2人合格（3人受験）
- ・ 普通旋盤技能検定1級受験 1人合格（1人受験）
- ・ プレス技能検定1級受験 1人合格（1人受験）
- ・ プレス技能検定2級受験 1人合格（3人受験）

の実績をあげた。

## 4. OJTによる上級勲章製作技能の伝承

勲章製作に必要な高度な技術を実地で身に付けさせるため、勲章製造に携わる職員の中から4人（仕上係2人、七宝係2人）を選抜し、平成17年4月から平成18年3月までの12箇月間、文化勲章、旭日大綬章などの上級勲章の製作を通じて技能習得訓練を実施した。

## 製造工程の効率化への取組状況

### 1. ワイヤ放電加工機による効率化

勲章製造工程の仕上げの一次工程（ヤスリ工程）においては、平成16年度においてワイヤ放電加工機による自動切抜き加工の作業体制を確立し、以後、作業の効率化に取り組んでいる。平成17年度においては、更なる作業方法の改善を行い、瑞宝章の一部（小綬章、双光章及び単光章の章身部分）について、22,014個（平成16年度は19,493個）の自動切抜き加工を行った。

本機の導入により、同工程にかかる作業時間が1個あたり約10分程度短縮しており、平成17年度の時間短縮効果は約1,700時間（平成16年度は約1,277時間）であった。

### 2. マシニングセンタによる効率化

平成17年度においては、瑞宝章及び旭日章等の一部について4台のマシニングセンタを活用して58,529個（平成16年度は50,839個）の自動切抜き加工を行った（このうち17,804個については、生産性の向上を図るため夜間に及ぶ無人運転での加工を行った）。この他に瑞宝章章身23,026個の穴あけ加工を行った。このマシニングセンタによる夜間運転の有効活用効果は、約3,000時間（平成16年度は約1,547時間）であった。

### 3. 七宝自動盛付機による効率化

勲章製造工程の七宝の盛付け作業においては、七宝自動盛付機を活用した効率化に取り組んでおり、平成17年度においては、平成16年度に引き続き七宝吐出部（シリンジ）に改良を加え、七宝吐出量精度を向上させた。これにより、勲章の構

成部品の一部（連珠・珠、つなぎ部分・珠）について20,565個（平成16年度は11,611個）の自動盛付けを行った。

なお、この七宝自動盛付機による時間短縮効果は約1,900時間（平成16年度は約851時間）であった。

#### 4. 七宝自動研磨機による効率化

七宝表面の仕上作業（光沢をもたせるための研磨作業）においては、七宝自動研磨機による効率化に取り組んでいる。

平成16年度に実用化した瑞宝章章身の自動研磨に対応するため、平成17年度に自動研磨機1台を増設し、旭日章及び瑞宝章の章身等について、24,369個（平成16年度は21,158個）の自動研磨を行った。

なお、この七宝自動研磨機による旭日章及び瑞宝章章身等の仕上作業については、1個当たり4～15分程度短縮して約3,200時間（平成16年度は約720時間）の短縮効果があった。

#### 5. 圧写機（630ト）による効率化

勲章製造工程の圧写工程（地金をプレスする工程）においては、平成16年度末に導入した高速型の圧写機（630ト）を使用した作業方法の改善（注）による圧写作業の短縮を図った。

これにより、平成17年度については章牌等3,894個、瑞宝単光章連珠4,200個の圧写を行い、約105時間の短縮効果があった。

（注）勲章用地金のプレス用極印（金型）は大きさが多様であるために、従来は、その都度、極印の直径に合わせたダイセット（圧写機に上下の極印を取り付ける際の固定用台座）に交換する必要があったが、極印の土台部分の直径をダイセットに合わせて均一化し、効率化を図った。

#### 6. 自動研磨機による羽布（ばふ）作業の効率化に向けた取組み

平成17年度から、従来銀盃用に使用していた自動研磨機を有効活用して旭日章章身の荒羽布作業の自動化（試行）に取り組み、自動研磨機に取り付ける専用治具を製作するとともに、手作業の細かな動きをソフト化し、旭日章章身の一部2,440個について試行を行った。

この結果、荒羽布工程において1個当たり5分程度の時間短縮効果が認められ自動化の目途が立ったので、今後実作業に取り入れていく予定である。

（注）羽布作業とは、布に研磨剤をつけて旭日章章身等の表面を手作業で研磨する作業

### □. 金属工芸品の多様化等

#### 金属工芸品の多様化・高品質化の推進状況

平成17年度においては、顧客ニーズに即した多様化・高品質化の製品として、異なる種類の金属の板と箔（アルミ箔のように薄く加工したもの）を接合する技術である箔クラッド技術（注）を開発し、世界自然遺産に登録された知床をモチーフに「箔クラッド飾り額」を製品企画した。

なお、本製品については、平成18年2月に申込受付を開始し、販売数量500個限定のところ8,890個の申込みがあり、その後抽選会を実施して当選者を決定した後、販売を開始した。

（注）箔クラッド技術；銀板と銅箔を接合した後、銅箔の特定個所を選んで特殊な処理（エッチング）を施すことにより、銀板の上に銅箔で様々な模様を描くことができる。

#### 金属工芸品の新製品開発

平成17年度の新製品としては、世界自然遺産に登録された知床をモチーフに、箔クラッド技術（前述）を応用した「箔クラッド飾り額（知床）」を開発した。

#### 製造工程の効率化への取組状況

1．勲章及び金属工芸品の材料となる円形は、製品の種類ごとに異なる専用の抜き型を取り付けた圧穿機により圧延板から打ち抜くが、この抜き型は上型と下型で構成されており、圧穿機に取り付ける際の位置合わせに多大な時間を必要としている。このため、平成16年度に引き続き、上型と下型を予め組込むことにより位置合わせが不要な抜き型（クイック・ダイ・チェンジ（QDC）方式）に改良することにより、作業時間の短縮を図った。

平成17年度は、圧写工程で保有している抜き型のうち、勲章用5セット及び金属工芸品用5セットについて、QDC用の新しい抜き型に更新した。

〔参考〕 QDC用の新しい抜き型に更新することにより、取付け調整と取外しに要する作業時間が、従来の80分から45分に短縮した。

2．これまでは極印（金型）の形式がプレス機の種類ごとに異なり、互換性もなかったため、勲章及び金属工芸品の製造に際しては複数の極印が必要となっていた。このため、平成15年度・16年度に引き続き、平成17年度においても計画的にプレス機の改造を行うことにより極印の互換性を持たせることで、作業の効率化及び納期の短縮を図った。

3．従来手作業で行っていた、複雑な形状をした工芸品の外周切り取り作業に、マシンングセンタを使用して省力化・効率化を図った。

平成17年度は、受注製品（高校野球優勝・準優勝メダル等54個）に加え、箔クラッド飾り額500個の外周切り取り作業を行った。

### 海外への製品紹介及び販売の取組状況

国内外で開催される国際マネ - フェアに参加し、メダルや七宝製品等の金属工芸品を展示・販売するとともに、海外ディストリビューターとの商談を通じて当局製品の紹介を行った。この結果、香港のディストリビューターから、海外として初めてとなる金属工芸品(メダル)の注文を得ることができた。

また、造幣局ホームページのリニューアルを行い、海外向け「Sales」コンテンツに金属工芸品を新たに掲載するとともに、販売品(貨幣セット、記念貨幣、金属工芸品)ごとに見やすいレイアウトにするなどの充実を図った。

[参考]

【金属工芸品の販売状況】

区 分	年度計画		販売実績		
	個数	金額(千円)	個数	金額(千円)	
17 年 度	勲章類	29,576	2,635,616	29,748	2,500,055
	銀盃類	2,608	49,927	2,236	50,085
	一般工芸品	48,461	877,368	63,424	1,239,044
	計	80,645	3,562,911	95,408	3,789,184
〔参考〕 16 年 度	勲章類	29,343	2,515,465	29,253	2,501,152
	銀盃類	3,048	48,579	4,031	86,005
	一般工芸品	50,423	465,850	73,811	1,377,302
	計	82,814	3,029,894	107,095	3,964,459

(注) 個数については、個数ベースを基本に、複数の構成品からなる製品については1個として計上した。

評価の指標

イ．勲章の製造

勲章の確実な製造の状況

新たな勲章への確実な対応の状況

伝統技術の維持・継承と職員の技術向上の状況

製造工程の効率化への取組状況

ロ．金属工芸品の多様化等

金属工芸品の多様化・高品質化の推進状況

金属工芸品の新製品開発

製造工程の効率化への取組状況

海外への製品紹介及び販売の取組状況

評価等

評 定

(理由・指摘事項等)

A

勲章製造については、内閣府との契約に基づく29,748個の勲章製造請負を確実に製造・納品したこと、ワイヤ - 放電加工機、マシニングセンタ、七宝自動盛付機、七宝自動研磨機等の自動化機械の導入等の効率化を積極的に進め、効率的な製造を可能にし、大幅な時間短縮を行ったことは評価できる。

伝統技術の維持・継承と職員の技術向上のため、芸術大学への派遣、研修の

	<p>実施、OJTなどを行った。また、技能検定試験への受験を奨励し、実績を上げた。</p> <p>金属工芸品については、新技術を開発して『箔クラッド飾り額』の新製品を造り販売に成功し、また、金属工芸品の海外への積極的な紹介もあり、海外としては初めてとなる金属工芸品の受注を得たことも評価できるが、平成16年度に比べてやや売上げが落ちており、貨幣セット販売が成功したことを見習い、今後も新商品の開発が必要である。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。</p>
--	---

## 独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（１２）

大項目： 2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： (2) 勲章等の製造等

小項目： 貴金属の品位証明

中期目標	<p>貴金属の品位証明等の業務については、最近の受注動向を踏まえ、効率化を図るとともに、業務運営のあり方を検討するものとする。また、採算性確保の観点も考慮した適切な手数料を設定するものとする。</p>
中期計画	<p>貴金属の品位証明等の業務については、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものですが、一方で、最近の受注動向を受けて業務運営方法を見直す等、経費削減を図るとともに採算性確保の観点も考慮しつつ、適切な手数料体系を構築します。</p> <p>また、これまで築き上げてきた信用力のある造幣局の品位証明について国民各層に理解を深めてもらえるよう広報の充実に努めます。</p>
(参考) 年度計画	<p>貴金属の品位証明等の業務については、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものですが、一方で、最近の受注動向を受けて業務運営方法を見直す等、経費削減を図るとともに採算性確保の観点も考慮しつつ、適切な手数料体系や利便性の向上についての検討を行います。</p> <p>また、これまで築き上げてきた信用力のある造幣局の品位証明について国民各層に理解を深めてもらえるよう広報の充実に努めます。</p>
業務の実績	<p style="color: blue;"><b>貴金属の品位証明等の業務の運営方法の見直し及び経費削減と採算性確保に向けた取組状況</b></p> <p>1. 貴金属の品位証明等の業務については、平成15年度以降、貴金属製品の市場動向や品位証明業務の現状を分析のうえ、同業務に係る固定的経費の削減を図るため人員削減を図るとともに、貴金属製品の品位証明に係る依頼及び返還に際しての宅配利用、手数料の納入に際しての銀行振込方式を導入するなど顧客の利便性向上のための種々の取組みに努めてきたところであるが、受託状況の現状を踏まえ、平成17年9月に新たな検討体制プロジェクトを設置し、収支改善に向けた抜本的な見直しを進めることとした。</p> <p>2. 具体的には、品位証明業務を含めた分析業務等全般の業務実態を把握のうえ、より効率的に業務を実施するためにどのような方策が適当であるのか、多角的な検討を行うとともに、平成17年度においても、固定経費の削減を図るため、引き続き人員を削減するとともに、工場の集約化(2棟を1棟に集約)を実施した。さらに、検定依頼業者の意見を踏まえて、貴金属製品の品位証明に係る依頼後の返還日数短縮の実施を決定したところである。</p> <p>現在、こうした措置を講じつつ、収支改善に向けた業務運営全般に関する抜本的な</p>

見直し方策に関して早期に結論を得るべく、具体的な検討を鋭意進めているところである。

〔参考〕貴金属の品位証明等の業務についての収支改善策

- ・ 人員の削減： 1人
- ・ 工場の集約化（東京支局試験検定工場）2,173㎡ 1,746㎡
- ・ 多能工化のためのOJT（職場内研修：注）を実施し、人員配置を柔軟にして効率的作業に努めた。

〔注〕OJTによる研修成果

- ・ 検定係作業員2名 銀分析技術を習得した。
- ・ 試験係作業員2名 試料採取技術を習得した。

貴金属の品位証明についての広報の充実への取組状況

1. イベント会場等でのポスター掲示及びパンフレット等の配布

- (イ) イベント会場において、以下のとおりポスター掲示及びPR紙の配布を行うなど、広報活動を展開した。

イベント名	期 間	PR紙配布枚数等
花のまわり道	平成17年4月20日～4月26日	100枚
東京国際コインコンベンション	平成17年4月29日～5月1日	912枚
第9回神戸国際宝飾展	平成17年5月19日～5月21日	400枚
造幣局IN盛岡	平成17年7月21日～7月26日	1,000枚
お金と切手の展覧会	平成17年8月17日～8月23日	300枚
日本ジュエリーフェア	平成17年9月1日～9月3日	285枚
造幣東京フェア	平成17年10月8日～10月10日	1,000枚
第3回大阪ジュエリー仕入れ会	平成17年10月12日	100枚
国際宝飾展	平成18年1月25日～1月28日	195枚
造幣局IN大分	平成18年2月23日～2月28日	1,000枚

- (ロ) そのほか、貴金属製品品位証明に係る広報活動を以下のとおり行った。

広報活動の内容	期 間	PR紙配布枚数等
日本ジュエリー協会受付窓口において品位証明事業のリーフレットを配布	通年	1,000枚
工場見学者にパンフレットを配布	通年	11,000枚
宝飾業界関係新聞へ広告を掲載	時計美術宝飾新聞、時計工芸新聞、日本貴金属時計新聞（平成18年1月1日）、貴金属装飾新聞（平成18年1月15日）	-
業者にポップスタンド配布		20枚



2. 貴金属製品品位証明業務の出張講演

東京都渋谷区の専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジに職員を派遣して「造幣局セミナー」を開催し、品位の証明方法としての金の分析方法（乾式試金方法）の講演を行い、貴金属製品品位証明業務の周知を図った。

【貴金属製品品位証明業務の状況】

年度区分	年度計画		受託実績	
	数量（個）	金額（千円）	数量（個）	金額（千円）
平成17年度	617,000	86,580	454,493	71,613
〔参考〕 平成16年度	480,000	80,114	728,240	96,877

評価の指標

貴金属の品位証明等の業務の運営方法の見直し及び経費削減と採算性確保に向けた取組状況  
貴金属の品位証明についての広報の充実への取組状況

評価等

評 定

（理由・指摘事項等）

C

平成17年度に新たな体制づくりのためのプロジェクトチームを設置し、貴金属製品の品位証明についての広報活動強化や工場の集約化、人員削減等、収支改善に向けた努力は伺えるが、更なる見直しが必要であると思われる。  
この間、受注数が伸びず、収支的な側面からの具体的な改善策の検討も未だ結果を出していないのが現状と思われる。予てから課題としている「品位証明」における造幣局の役割を更に詰め、公共性があり存続せざるを得ないならば、アクションプログラムに基づく新たな工夫を検討すべきである。

以上を総合的に勘案して、本項目の評定をCとする。